第４学年音楽科学習指導案

日　　時：令和４年　１１月２４日　２校時
対象学級：４年２組　３０名
教　　室：音楽室
指 導 者：小　原　育　世

１　題材名

いろいろな音のひびきを感じ取ろう

教材名　音楽づくり　　「打楽器の音楽」
　　器楽　　「茶色の小びん」
　　鑑賞　　「メヌエット」「クラリネットポルカ」

２　内容のまとまり

第４学年　Ａ(2)器楽ア，イ（ア）（イ），ウ（ア）（イ）（ウ）
　　(3)音楽づくり　ア（ア）（イ），イ（ア）（イ），ウ（ア）（イ）
　　Ｂ 鑑賞　ア・イ

３　題材の目標

（１）楽器の音色や旋律の特徴などと曲想との関わりに気付き，楽器の組み合わせや音の重なり方を生かして音楽をつくる技能や，音色や各パートの音のバランスに気を付けて演奏する技能を身に付けている。

〔知識・技能〕

（２）楽器の音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら味わって聴いたり，楽器の音色を生かした演奏の仕方や，音楽の縦と横の関係などの仕組みを用いた音楽のつくり方について，思いや意図をもったりする。

〔思考・判断・表現〕

（３）楽器の組み合わせ方や重ね方を工夫して音楽をつくったり，音色やパートの重なりを生かして互いの音を聴き合って演奏したり，音色や旋律の特徴による曲や演奏のよさなどを感じ取りながら聴いたりする学習に進んで取り組む。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

４　題材について

（１）児童について

ア　コロナ感染予防のため，普通教室での音楽活動についてたびたび控えてきたものの，１１月１日の市の音楽会に向け，学年全体で表現活動に取り組んできた。

イ　４学年鑑賞教材「白鳥」・「堂々たるライオンの行進」の比較聴取では，主な旋律の特徴や，曲想の違いを聴き比べ，気付いたこと，感じ取ったことを話し合ったり，鑑賞文を書いたりしている。

ウ　旋律の特徴や重なりに関心をもち，進んで表現に取り組む姿勢が育ち始めている。

（２）題材について

本題材では，音色を中心に音の重なりや音楽の仕組みとのかかわりを取り上げながら，表現と鑑賞の学習を進めていく。特に，材質による音の特徴をとらえて音の組み合わせを工夫して音楽をつくり，その響きの違いを生かして自分なりの発想をもって表現する学習を体験する。

４年生の中心的な合奏教材である「茶色の小びん」では，いろいろな楽器の音が重なる豊かな響きを味わいつつ，パート間の音量のバランスに配慮しながら演奏する活動を通して，互いの音を聴き合って演奏することの喜びを味わうようにする。ここでは，音色に関わる学習の一環として，鉄琴や木琴に使うマレットの選択の工夫にも気付かせていく。

鑑賞では，３学年で金管楽器の音楽に親しんだ学習経験をふまえ，木管楽器がもっている固有の音の美しさを味わって聴く活動を進める。特に，フルート，クラリネットについて，音色のよさ，魅力に気付くことができるように，音を聴き比べたり，演奏の様子を視聴したりできるようにする。

また，ジョイントアップ公開研究会という機会を生かし，中学校（可能であれば，学区。卒業生）の吹奏楽部でフルート，クラリネットに取り組んでいる生徒さんの演奏する映像を収録し，授業の中で児童にその姿を視聴させたい。鍵盤ハーモニカやリコーダーの学習で意識していることが，フルートやクラリネット等の木管楽器，ひいては吹奏楽に親しみ，挑戦する可能性を示したい。

（３）指導について

ア　本題材における言語活動の特徴等

音楽の言語活動として，これまでの経験や下記のような音楽的用語を使い，自分の気付いたこと，感じたことを表現できるようにしたい。

活用させたい言葉
音色　　旋律　　強弱　　音の重なり　　拍

イ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫等

「主体的な学び」を実現するために，打楽器，リコーダー等の楽器をよく聴きあい，自分たちの気付きをもとに響きを重ねて合奏を作り上げることができるようにする。過程での発言を可視化する。

「対話的な学び」を実現するために，電子媒体を利用し，課題把握から対話形式で進められるように授業構成をする。また，学びに連続性を持たせ，前時の学習内容を視覚的に共有する。

「深い学び」を実現するために，木管楽器の鑑賞の学習において，聴覚を優先としながら，「図形楽譜」「実際の演奏場面」等の視覚的要素を段階的に取り入れ，気付きを促す。

ウ　研究の手立てとの関わり

電子黒板に教科書を撮影し，作成したパワーポイントを活用して，学びの過程が視覚的にわかるように手立てを組んでいく。児童の授業のふりかえりを前時想起に用いて，意欲向上を図る。複数の教材曲の中で活用させたい用語をくり返し取り上げ，音楽的な言葉の定着を図る。

５　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①打楽器の音色や組み合わせの特徴，構成の仕方が生み出す面白さに気付き，即興的に音を選択し、組み合わせて表現する技能や，音楽の縦と横との関係など音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	①音色，強弱，音楽の縦と横との関係などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，いろいろな音の組み合わせを即興的に表現し，音を音楽へと構成することを通し，まとまりを意識した音楽作りについて思いや意図をもっている。	①打楽器の音の響きやそれらの組み合わせの特徴を生かし，即興的に音で表現する学習に進んで取り組もうとしている。
②音色や響きに気を付けて，旋律楽器や打楽器を演奏する技能や，互いの楽器の音や副次的な旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能を身に	②楽器の音色の特徴や音の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，曲の特徴を捉	②楽器の音色を生かして演奏したり，互いの楽器の音や副次的な旋律，伴奏を聴いたりして，音を合わせて演奏する学習に進んで

付けて演奏している。 ③木管楽器の音色や響きと曲想との関わりに気付いている。	えた表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 ③楽器の音色や旋律の特徴と曲想との関わりについて気付いたことを生かして，曲や演奏のよさなどを見いだし，曲全体を味わって聴いている。	取り組もうとしている。 ③木管楽器の音色や響きに興味・関心をもち，曲や演奏のよさなどを味わって聴く学習に取り組もうとしている。

６　指導と評価の計画（８時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法		
			知・技	思	主
1「打楽器の音楽」音の特徴を生かして音楽をつくる。（音色・強弱・音の重なり，反復，音楽の縦と横の関係）					
1時	・４種類の図形カードを見て，楽器でどのように音を出して表現すればよいか試す。 ・工夫した表現を紹介しあう。 ・カードを２枚以上使って即興的に音で表現する。	・手で持てる小物打楽器を配り，素材によって異なる種類の音がすることに気付くようにする。 ・友達の発表を聴き，自分の楽器ならどのように音を出すのかを考えられるようにする。 ICT（共有化・焦点化） 四枚の図形楽譜の表示			↓
2時	・打楽器の音の組み合わせ・音の重ね方，反復などを生かして，三人一組で音楽をつくる。 ・音色を考えて，使う楽器を決める。 ・カードを並べながら，音の重ね方や，反復などを生かし，グループで「中」の部分を生かした音楽をつくる。	・トライアングルは長い音も短い音も出せる，ウッドブロックは高さの違う音が出せるといった楽器の音色の特徴を確認し，組合わせを考えて楽器を選ぶようにする。 ・様々な重ね方ができるよう，カードを多く用意してグループに配布する。 ・並べたカードを音で試しながら，音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。			↓ ①行動観察・演奏聴取
3時	・「中」の部分を確認し，始め方や終わり方を工夫して，グループの音楽をつくる。 ・グループごとにつくった音楽を発表しあい，互いの表現のよさを認め合う。	・中間部分の音楽がどうなっているのかを確認し，どのようにはじめ，どのように終わりたいのかを話し合い，それに合うカードを選択できるようにする。 ICT（共有化・焦点化）	↓ ①聴取・発言・記述	↓ ①行動観察・発言・演奏聴取	

2「茶色の小びん」楽器の音色の特徴や演奏の仕方について考え，パートの役割を感じて演奏することができる。　（音色・旋律・音の重なり・拍）					
4時	・指導用 CD を聴き，曲の感じをつかみ，主な旋律を階名唱する。 ・主な旋律を鍵盤ハーモニカで演奏し，旋律の特徴に合う息の使い方を工夫する。 ・副次的な旋律をリコーダーで演奏し，主な旋律と合わせる。	・楽譜を見ながら範奏を聴き，合奏の学習への見通しをもてるようにする。 ICT（視覚化・共有化） 楽譜の表示 曲の構造の確認			②観察・記述
5時	・♯（シャープ）について知る。 ・主な旋律，副次的な旋律，和音，低音の各パートを確認する。 ・４つのパートの担当を決め、拍にのり、合奏する。	・リズムを確認したり，階名唱をしたりして楽譜に慣れるようにする。 ・マレットの持ち方や打つ位置，タンギングや音の高さなどを確認する。	②演奏聴取		②観察・記述
6時	・各パートの音量のバランスや響きに気を付けて演奏する。 ・自分が担当する楽器の旋律と役割を確認する。 ・互いの表現を聴きあい，工夫のよい点について意見交換する。	・数種類のマレットで演奏し，その音色の違いを学級全体で確認する。 ・聴いている児童は，主な旋律が聞こえるかどうかを確認し，改善策を考えられるようにする。	②演奏聴取	②発言内容	②観察・記述
3 フルートとクラリネットの音色を味わい，旋律やリズムの特徴から曲想の違いを感じ取る。〔音色，旋律〕					
7時	・木管楽器について知り，音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し，フルート独奏の A 部分を聴き，感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋律の動きを確認し，前奏＋A 部分を聴き，感じたことや気付いたことを話し合う。	ICT（共有化・焦点化） ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり，音楽授業支援 DVD を視聴したりして，それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。 ・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き，旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりすることを確認する。 ・２つの曲のそれぞれの特徴や違いについて，発言しあう。	③聴取・発言・記述	③記述	③行動観察
8時 本時	フルートとクラリネットの音色のよさや旋律の特徴を感じ取って聴く。	・フルート，クラリネットに取り組む姿，基本の演奏法を視聴する。 ・「音色」のよさと，「楽曲の旋律の特徴」の区別と，その関わり合いについて感じたことを交流できるようにする。			

６　本時の指導（８時間目／全８時間）

（１）　目標

フルートとクラリネットの音色のよさや旋律の特徴を感じ取って聴く。

（２）　展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）
導入 ７ 分	１　常時活動　ICT（共有化） 前時想起 ２　課題把握 **フルートとクラリネットの音色のよさや曲の特ちょうを感じ取ろう。**	・「茶色の小びん」を演奏する。 児童の前時のふりかえりを活用し，称揚することで意欲につなげる。
展開 30 分	３　問題解決 （１）フルート・クラリネットの練習場面を視聴する。 ICT（共有化・焦点化） （２）全体交流 ICT（共有化） （３）曲全体を通して鑑賞する。 提示：図形楽譜 ICT（視覚化・共有化） （４）曲を聴きながら動作化する。	・それぞれの楽器の練習場面を視聴し，楽器の奏法や，取り組む姿について感じ取ったことを話し合う。 ・タンギングや呼吸が大切なのは，リコーダーと同じだ。 ・もっと息を多く使うようだ。 ・指使いが難しそうだ。 ・自分なら，この楽器に取り組んでみたい。 ・フルートの音色は，しっとりしている。優しい。 旋律の動きは，ゆっくり。なめらか。 ・クラリネットの音色は，あたたかい。 旋律の動きはすばやく、陽気な感じがする。 「メヌエット」：３拍子の舞曲 「クラリネットポルカ」：２拍子の舞曲 手拍子やステップで動作化する。
終末 ８ 分	４　まとめ **フルートとクラリネット　それぞれの音色のよさがある。** **「メヌエット」「クラリネットポルカ」は，それぞれの楽器の音の特ちょうを生かした曲。** ５　演奏場面を動画で視聴する。 ICT（視覚化）	

（３）板書及び電子黒板等の計画

ア　板書

フルートとクラリネットの音色のよさや曲の特ちょうを感じ取ろう。

題名　「メヌエット」　　「クラリネットポルカ」

フルートとクラリネット　それぞれの音色のよさがある。
「メヌエット」「クラリネットポルカ」は，それぞれの楽器の音の特ちょうを生かした曲。

イ　電子黒板

①「茶色の小びん」楽譜

②フルート・クラリネット練習場面の動画

③「メヌエット」「クラリネットポルカ」の図形楽譜

④「メヌエット」「クラリネットポルカ」演奏動画